



奨励賞



①都城工業高等専門学校の学生作の市街地模型を用いた議論 ②幅広い世代の参加 ③子どもたちの思い出作りとして模型教室を開催 ④模型を使って最終案を説明 ⑤計画地の広場と同じ大きさの空間で実証実験 ⑥「円形ホールを活かして欲しい」の声から吹抜けの円形広場を図書館中央に計画 ⑦「本に触れやすい工夫を」の声から壁一面に雑誌を展示したマガジンウォールを計画

まちの中心に集い 楽しむ「たまり場づくり」ワークショップ ～都城市中心市街地中核施設整備支援事業市民ワークショップ等運営～

株式会社アーバンデザインコンサルタント

大杉哲哉・堤八恵子・扇輝久・小峯裕・藤井宏海・金重悠子

カツノ風景デザイン室

勝野靖弘

都城市は、中心市街地において閉店した都城大丸跡地に、図書館、市民健康センター、子育て世代活動支援センター等の拠点施設を整備することとし、中でも、跡地に隣接したセンターモール（空き店舗）の建物をリノベーションし、図書館として再利用する構想をまとめた。

本業務では、施設整備に対する市民の声を広く集めることが求められたため、多様な参加手法を組合せ、市民参加の総合マネジメントを行った。その結果、まちづくり従事者やはじめてまちづくりに関わる人など延べ400人超の参加を得ることができた。また、施設の利用イメージのキーワードとして「たまり場づくり」が導き出され、市街地全体に繋がる各施設の配置計画を行った。

当施設は施設全体の供用を開始しており、至るところに市民の声が実現化されている。

作品概要

作品名——まちの中心に集い 楽しむ「たまり場づくり」ワークショップ
～都城市中心市街地中核施設整備支援事業市民ワークショップ等運営～

所在地——宮崎県都城市中町16

発注機関——都城市商工観光部商工政策課

業務期間——平成26年6月3日～平成27年3月20日

規模——都市再生整備計画区域:56.5ha

計画対象区域:1.2ha(※業務時の対象区域)

事業目的——中心市街地活性化に関する中核施設整備において、公共施設の機能・運営等の市民ニーズを抽出し、市民が求める施設像(周辺施設空間を含む)を描き、中核施設整備事業基本計画の思想とするとともに、情報を共有し、建物完成後も協働で施設運営を進めていく市民の意識醸成を図った。

主な会議——(市民ワークショップ)市民や学生、商工会等の参加型会議で施設のあり方や構成等議論した。

(市民ワーキング)市民活動団体やイベント企画者等による会議で、ワークショップの企画、意見取りまとめ等を行った。

(市民討議会)無作為抽出の会議で、基本計画を討議した。

供用開始——平成30年4月28日

作品評

本作品は、地方都市における中心市街地の中核施設建設において、そのあり方に対する提案を市民ワークショップなど市民参加を促して、各種の提案としてまとめたマネジメント業務の成果である。

多くの関係者が関わる事務局を運営し、数多くのワークショップの開催やニュースの発行、そして、その結果としてのソフトの提案、という一連の努力が十分評価された。また、市民に解りやすいプレゼンテーションや表現ツールにも工夫がされている。そして、その施工が完了し、各施設の随所に市民意見が取り入れられ、市民に親しまれ、利用される施設となっている点にも評価が集まり、奨励賞となった。